

沖縄周辺重要水産資源調査

海老沢明彦、本永文彦、久保弘文

目的及び内容

本県周辺海域の主要魚種であるアイゴ類、シロクラベラについて漁獲物を購入し、それらを通じて年齢と成長、成熟、産卵、系統群などの知見を得るため個体生態調査を実施する。また漁獲物の資源状態を知るため水揚げ港における漁獲量調査を実施し、資源状況を把握しその資源を対象とする漁業の管理及び合理的生産体系の確立をはかる。

なお本調査を進めるにあたり、標本魚の購入、セリ帳の集計に便宜を与えて下さった関係漁協の方々に厚く感謝する。本委託調査は昭和62年度をもって終了する。長年にわたりご指導くださった関係水研、水産庁の担当の方々にも厚く感謝する。

要約

- (1) 勝連漁協セリ市場におけるシロクラベラ、シモフリアイゴの水揚げ量調査、及び標本魚を購入して精密測定調査を実施した。
- (2) シモフリアイゴは合計217尾購入した。本調査で過去に実施した精密測定結果を併せ、本永・喜屋武(1988)が取りまとめた。
- (3) シロクラベラは合計42尾購入し測定した。本種は現在沖縄周辺サンゴ礁魚類資源調査で、継続調査中であり、まとめ次第報告されるであろう。
- (4) 1987年度の漁獲量調査で、潜水器漁業でのシロクラベラの水揚げ量は8084.4Kg全体の16.8%を占めた。
- (5) シモフリアイゴの水揚げ量は定置網では2522.9Kgで全体の3.9%を占め、刺網では1661.7Kg、全体の4.6%となった。

文献

- 本永・喜屋武(1988) 沖縄島沿岸定置網によって漁獲されるシモフリアイゴの産卵生態、南西外海の資源・海洋研究、Vol.4:33-40